

り自覚していないということであろうか。それは、具体的にどんなことを意味するのであろうか。それは、逸脱行動に限らず、さまざま行動の場面で高校生の行動を動かしているのであろうか。現在の青少年の行動全体や逸脱行動を分析するうえで、重要なキーワードであるといえるかもしれない。

第2節 青少年の逸脱行動の類型化

前節で見たように、調査対象となった青少年は、逸脱行動の種類も程度も多様である。そこで本研究においては、調査に回答したそれぞれの青少年の逸脱の程度がどの程度の段階にあるのか、それを「逸脱度」という尺度によって分類することを試みた。その方法は、次の通りである。まず、それぞれの逸脱行動についての回答を得点化するために、表1-6のように逸脱度判定のための得点化基準を作成した。そして次にこの基準に従って、個々の逸脱行動に対する回答を得点化するための基準を作成し、高校生一人一人の回答を得点化し、逸脱度点数を算出した。(逸脱行動の分類は、平成12年度『犯罪白書』の分類を参考にした。)なお、逸脱行動の得点化にあたり、学校内器物破損に関しては、「学校の物をわざとこわしたり、傷つけたりする」という行為が、学校の窓ガラスを割るといったはっきりと器物破損に該当するものから、学校のロッカーや机を蹴とばすといった軽微のものまで含まれるので、他の非行(万引き、自転車盗など)よりも得点配分を少なくしたことをお断りしておく。

個々の逸脱行動ごとに得点化をどのように行ったかを示したものが、表1-7である。この表の配点に従って 調査対象者の一人一人の総得点を計算し、その得点によって、高校生全体を逸脱行動の経験及び程度別に3つと4つのグループに分けた。(表1-8)ここでは、逸脱度を3つのグループに分けたものを「逸脱度変数1」、4つのグループに分けたものを「逸脱度変数2」と名づけておく。「逸脱度変数2」は、「逸脱度変数1」の逸脱がすすんでいる「逸脱群」をさらに2段階のグループに分割したものである。(表1-9)

表1-6 逸脱度判定のための得点化基準

	まったくない	1・2度ある	時々ある	よくある
問題行動	0	0	1	2
虞犯	0	1	2	4
非行(除く学校内器物破損)	0	3	5	7
学校内器物破損	0	2	2	5

図1-2、1-3は、逸脱度変数1、逸脱度変数2の割合と男女比を示したものである。この二つの図からは、全体的傾向として、男子の方がより多く逸脱行動をしていることがわかる。

以下の章の分析においては、この逸脱度変数1、逸脱度変数2を用いて、高校生の逸脱行動とそれに関連をもつ要因(規範意識、家庭生活・学校生活・友人関係の満足度等)等との関連について検討が行われている。

表1-7 逸脱行動の分類と得点化

		ま つ た く な い	得 点	1・2 度 あ る	得 点	時 々 あ る	得 点	よ く あ る	得 点	逸脱の分類
1	授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む	1	0	2	0	3	1	4	2	問題行動
2	パーマをかけたり、髪を染めたりする	1	0	2	0	3	1	4	2	問題行動
3	病気やケガなどの理由がないのに、さぼって学校に行かない	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯(怠学)
4	校則をやぶって注意される	1	0	2	0	3	1	4	2	問題行動
5	学校の物をわざとこわしたり、傷つけたりする	1	0	2	2	3	2	4	5	非行(器物破損)
6	自分の家のお金やものをこっそり使ったり、持ち出す	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯(自宅金品持ち出し)
7	家族に知らせないで、外泊する	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯(無断外泊)
8	夜11時過ぎに友だちと遊ぶ	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯(深夜徘徊)
9	お酒やビールを飲む	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯(飲酒)
10	タバコをすう	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯(喫煙)
11	テレクラに電話する	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯
12	店の品物を万引きする	1	0	2	3	3	5	4	7	非行(窃盗)
13	他人の自転車を勝手に使ったり、盗んだりする	1	0	2	3	3	5	4	7	非行(窃盗)
14	ナイフを持ち歩く	1	0	2	1	3	2	4	4	虞犯

表1-8 逸脱行動群の分類

逸脱度変数1

- 0～3 非逸脱群
- 4～9 小逸脱群
- 10～ 逸脱群

逸脱度変数2

- 0～ 3 非逸脱群
- 4～ 9 逸脱小群
- 10～17 逸脱中群
- 18～ 逸脱大群

表1-9 逸脱度変数による回答者の分布

逸脱度変数1

	非逸脱群	小逸脱群	逸脱群	合計
男性(人)	337	311	316	964
%	35.0	32.3	32.8	100.0
女性(人)	454	356	230	1040
%	43.7	34.2	22.1	100.0
合計	791	667	546	2004
%	39.5	33.3	27.2	100.0

逸脱度変数2

	非逸脱群	逸脱小群	逸脱中群	逸脱大群	合計
男性(人)	337	311	180	136	964
%	35.0	32.3	18.7	14.1	100.0
女性(人)	454	356	133	97	1040
%	43.7	34.2	12.8	9.3	100.0
合計	791	667	313	233	2004
%	39.5	33.3	15.6	11.6	100.0

図1-2 逸脱度変数1と男女比

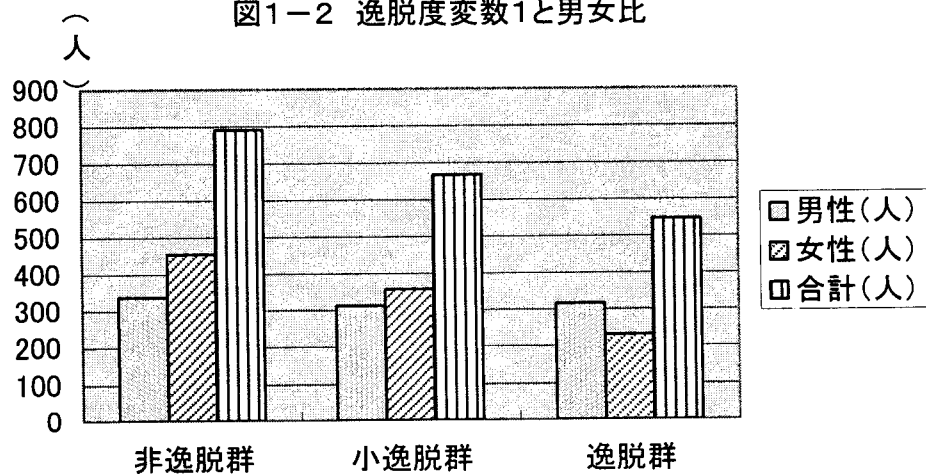


図1-3 逸脱度変数2と男女比

